

# 交通事故死者ゼロに向けたHonda安全技術の進化 安全・安心ネットワーク技術

交通参加者を通信でつなぎ二輪を含む交通弱者側にも安全行動を促し、誰もがぶつからない交通社会の実現を目指す

## 技術内容・特徴

- 各交通参加者の状態・特性を把握し、通信でデジタル空間上に集約
- デジタル空間上にて、各交通参加者の特性・状態等から統合的にリスク予兆を捉える
- リスクが高まりそうな交通参加者へ対処手法を通知、リスクへの未然対処を促す

すべての交通参加者の行動・状態を推定、総合的に判断し、  
リスクを予兆する技術で事故を未然に回避



すべての交通参加者で力を合わせ協調安全社会を実現

### <コア技術>

#### 人特性理解

バイタル、会話等による推定

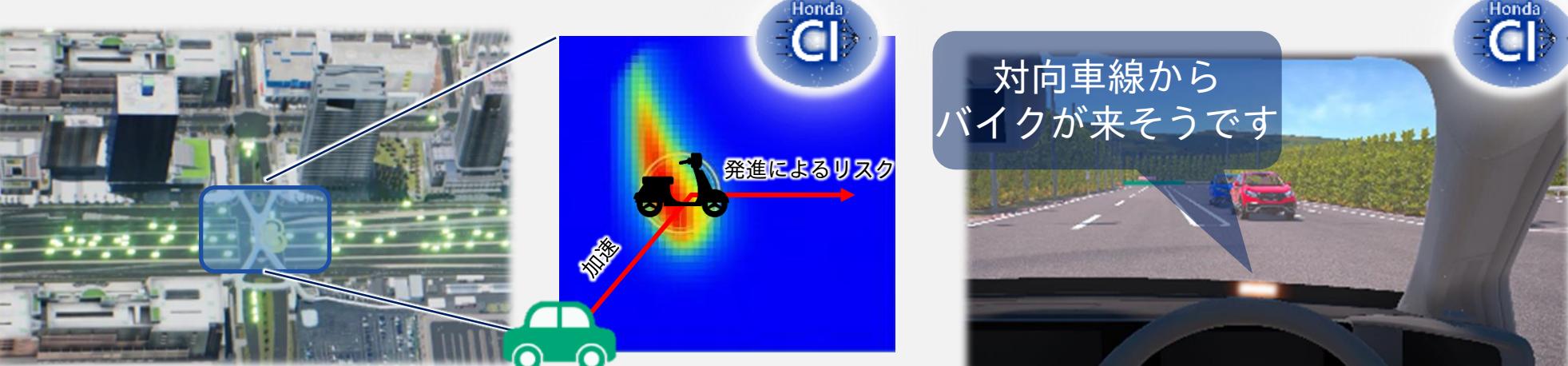
疲労、ストレス等を検出



#### 人特性を考慮した 統合リスク判断

10秒先のリスク予兆

個々の状態を踏まえた  
統合リスク抽出と回避策導出



人によるリスクの予兆を把握し、ヒューマンエラーが起きる前に対処

#### 共話型 コミュニケーション

対話による共感

潜在リスクの理解促進

## 支援の考え方

ヒューマンエラーの根本原因へ対処

### 安全安心ネットワーク (すべての交通参加者)

TTC 衝突リスク

Low 知識・スキル  
モラル・マナー

運転コーチング 体調不良 怒り・高揚・落込・漫然

状態健全化 予兆支援



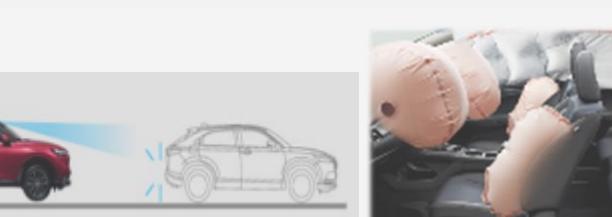
事故回避・衝突後対応

従来技術 (四輪)

-10s -6s -3s

High Accident

V2X AEB/AES エアバッグ



## 官民連携活動例

・NEXCO中日本(24年度 実証完了)  
「高速道路の自動運転時代に向けた路車協調実証実験」



・内閣府(23年度より)  
「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期  
／スマートモビリティプラットフォームの構築」



※2025年度秋に自動車・自転車メーカや研究機関等の企業・団体と連携し実証実験を行う予定  
(交通事故防止支援研究開発コンソーシアム)

早期社会実装に向けた技術構築、協調プラットフォーム標準化を業界・官民一体で推進